

ほっぷ・ステップ・JUMP!

(保っ父)

1994.11.21 vol.22

発行 北海道の子どもと保父の会

今年も残すところあと一ヶ月余りとなりました。

今年は、大雪、猛暑、地震、集中豪雨と自然の偉大さ、怖さをまざまざとみせつけられた一年でした。「自然との触れあいを楽しむ」とは保育のねらいによくでてくるフレーズですが、心地よい面ばかりでなく、厳しい面も知ってこそ、真の理解・共存になりえるのではないかと思ったりしています。

今年の五月に旭川で、旭川・十勝の仲間と交流会を持ちました。旭川の仲間は、カヌーやキャンプ等で積極的に交流を深めていて、この交流会でも飲んだ翌朝、嵐山で自然探索会を行いました。鳥のさえずりに耳を傾け、双眼鏡をのぞいて鳴き声の主を探す、足元の草や虫を見回しながら山道をのぼる…。都会育ち(?)の私には少々辛いものがありました。終わったあとの何とも言えない爽快感、そしてなによりも自然を愛し、大切にしている人たちと一緒にその場にいられることに何ともいえない心地よさを感じました。

自然との触れあいは、アウトドアレジャーの流行で、誰にでも気軽に楽しめるようになりました。しかしキャンプ場等に行くとあちらこちらにゴミが散乱していて、「人間の嫌な部分」を見せつけられることばかりで悲しくなります。

こんなことをしていたら、そのうちバチがあたるぞ!

私は自然愛好家ではありませんが、自然に限らず、ありのままを大切にし、そのまま受け入れることができるっていうことは、それイコールその人の心の広さ(余裕)を示しているように思えるのですが、いかがなものでしょうか。

会長 桑原 一司

全国男保連

って何?

正式には、全国男性保育者連絡会といい、一九七三年の創立から一九七六年の政令改正(男性も資格を取れる)前後まで会員登録の形で組織だっていました。が、現在は全国各地の保育者たちがその地域ごとに活動し、主に二年ごとの全国交流集会に参加することによって連絡が保たれています。各地域ごとの活動も東京、大阪、神奈川など集会を持ち、野球チームを作ったりと活発に活動を続けています。

今回、名古屋、神奈川に続いて、第八回全国研究交流集会を北海道・札幌で行うことになりました。

「風に吹かれて」

保父修行物語

二十二

光星はとポツポ保育園 船戸敬悦

真っ暗な暗室の中に赤い光がポツポツと光っている。ここは保育園の二階、窓という窓には黒い幕が一面に貼られていた。私は年一回おこなわれる写真のコンクール「視点展」のための写真のひきのぼし作業に追われていたのだ。JRPの武蔵野支部からは私を含めて数名の写真家達も作品のひきのぼし作業を一緒におこなっていた。みんな熱気ムンムンの暗室の中で、ひきのぼし器の前では緊張しながらも、この写真はまだまだピントがあまいな、もっと露出をかけなくちゃ！などみんな和気あいあいとした雰囲気話しながらも、自分の気に入った写真をひきのぼそうとしていた。私のテーマは保育園の子どもの写真を撮り続けることだった。私が担当している年長組、りす組の子ども達を春から夏へ、そして秋から冬にかけて追いつけていた。春の季節には保育園で一番大きい年長組になった子ども達、前の年長組から引き継いだチャボやウサギの飼育、当番など、子ども達はお互いに協力し合いながら、キャベツや近くの空き地ですべてきた

葉っぱを包丁で細かくみじん切りにしたり、おからを器に入れて手際よくチャボやウサギ小屋にキャーキャーいいながら入れていく様子など、目を輝かせてやっている姿がほほえましかった。そうだった自分が気に入った場面を撮り続け、選んで選んで数百枚のネガの中からJRPの先輩写真家に、コンテストに出せる写真があるか選んでもらうのだった。私は子ども達のイキイキしている表情、笑顔の写真好きだった。そこで「この写真好きはどうでしょうか？」「…の写真好き？」と聞いていくのだが、返事が今ひとつない。その時…「この写真好いじゃない！」と取り上げてくれた写真があった。Kちゃんのもの思いにふけて、Kちゃんも「えー」と

私は思っていた。私はあまり好きな表情ではない。Kちゃんだったらもっとハツラツとしたいい写真がいっぱいあるのに！と思っていた。他の人達も「おー、これはいい。」「すごい！」と集まってきていた。「私はなにがいいのか、この写真のどこの写真好いかわからなかった。一枚の様子をみているうちに、真っ暗な中にポツポツと光る灯火がだんだん大きくなって、高揚していく自分を感じていたのだ。



全国集会の 経過報告

〈内容〉

シンポジウム・分科会のテーマや内容、タイムテーブル等については、既に皆さんの手に渡っている参加要綱（黄色い紙）に記載されている通りです。

分科会では。――こども・家庭・保育制度等、様々な問題や考えが我々のまわりをとりまいて、今の、その社会の現状を的確にとらえ、柔軟に対応していきながらも、何か大切なものを忘れていないか？ 保育の原点とは何か？ 自分は保育者として、男として何ができるのか？――シンポジウムでの提起を元に、討論を行っていききたいと思います。

また、この世界ではまだまだ「少数派」の男性としての苦勞や不満、将来を考えての不安、逆に男性だからこんないいこともあるんだという自負等、男性保育者がつ特有の思いも共有（決して暗い慰め合いではなく）して、明日からのやる気を見出せるのも、この集会の大きな意義と言えます。

ベテランが今まで培ってきた保育に対する思いを語るもよし、年数、立場を関係なく話せる貴重なこの機会を是非多くの人に味わってもらいたいものです。

〈参加状況〉

参加申込みは十一月一日現在、二十名程（道外のみ）と少ない現状です。道外の参加の呼びかけを強化するとともに、道

内の会の皆さんも、時間をくって絶対参加してください。百名を目標に男女問わず、関心のある人を誘って来てほしいと思います。

〈準備〉

準備としては、大会要綱の作成と、各内容の煮詰め（開会セレモニーや交流会を含めて）、当日の役割分担、横断幕や名札などを作る作業等、色々あります。札幌中心の作業となりますので、多くの人に集まってもらわなくては到底できません。手伝ってくれる方がいれば（女性がいいなあ）、どんどん連れて来てください。市外の方は当日役割を持って動いてもらいますので、積極的に連絡をお願いします。



経過報告パート2

〈報告〉

★全国集会の後援について、難しいのではと思われていた、札幌市の後援を取ることができました（やった！）。名義のみなので、お金の面の援助はないのですが、男性保育者が広く理解されてきているという、よいアピールになると思います。札幌市長名で全国集会にむけての励ましのメッセージもいただきました。今後は札幌市私保連にも依頼していきたいと思えます。

★全国集会前日は、事務局の幌北中央保育園で前夜祭を行います。要するに最後の準備をみんなで泊まりがけでやろうということですので、終了した十二日（日）は、後かたづけ終了後に反省会、そのあとみんなで温泉に行こう！なんていう話しもあります。これは十三日の仕事は休んでおかないではなりませんね（あくまでも話だけです。いまんとこ…）。

アンケートを

行います。

この度、アンケートを会員の皆さん宛に送付いたします。これは全国集会の要綱に「道内男性保育者五十人アンケート」と称して、資格を取るまでの苦労や就職活動をしてみての苦労（苦労ばかりあるわけじゃないでしょうが…）などを生々しく綴っていただき、参加してくれた方々に現状を知っていただくという趣旨であります。忙しい時期とは思いますが、大会の成功のためにも必要不可欠ですので、十二月十日までに郵送、もしくは最寄りの実行委員までお渡しください。

【集計係】

065 札幌市東区北十四条東十六

丁目

元町杉の子保育園

小田 進一 まで。

☆新しい名簿を作りました。間違っている所がありましたら、事務局まで連絡ください。

☆めいぼには、会員と十一月四日に行った札幌市内の男性保育者交流会で声をかけた方の名前が記載されています。これから集まりのある時は、会員以外の方にも声をかけてできるだけ参加者を多くしたいと思っております。

が、あくまでもその人の意志によるもので、決して強制ではありません。一部、名前が載ったことで誤解されている方もいたのではっきりさせておきたいと思えます。

子育て日記

く男の育児、男も育児？く

その十七

札幌トモ工幼稚園 船山利洋

昭和六十年十月一日、長男航（ワタル）の初誕生、満一才の誕生日である。普通一般的な慣習として、一升餅を誕生の子に背負わせ、一く二歩歩いた所でこける。こけない子は、うまくこけるようにしむける、というのが通常だろうが・・・。

我が家では、その慣習をもろともせず、一路小樽のペンションへと向かったのである。十月ともなるとペンションはがら空きか、宿泊客は我が家のみ。おかげさまでゆったりとした一日を過ごすことができたのである。水族館へ行き、街並みをぶらつき、夕方ペンションにもどると、手作りのおいしそうな料理

が待ち受けていた。

夕食後、ささやかながら航の誕生会が催され、ペンションのオナーゴ夫妻とそのお子さんが二人と、我々夫婦と航の計七人でケーキをついばみ、話に花が咲いていた・・・。

そのうち、子ども同士で遊び始めるようになると、それまでハイハイしかしていなかったうちの子どもが、歩き出したのである。

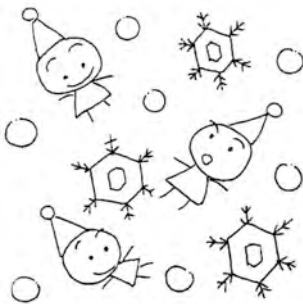
まさに感動である。はじめての子の初めての誕生日にはじめて立って歩いたのである・・・。

ごくごく最近、馬なり（四つんばいになり、両手両足で腕立てのような状態）になったりしていたので、そろそろだなぁくとも思っていたのだが・・・、こうタイミングよく歩いてくれると何とも言えず、嬉しい限りです。

一升餅を背に、慣習にそうのもよし、そうでないのもまた格別な感動を呼ぶこともある、などと我が子のヨチヨチ歩きをながめながら、親子三人で川の字になり、一夜を過ごしたペンションでの出来事。

子どもの成長を通じて、よりいっそう家族の絆、みたいなものを育っていくものなんだなぁくとしみじみ思えるような、そんな出来事だったのでばかろうか・・・。

満一才の誕生日おめでとう、航君！



男性保育者交流会
新人三名含む二十名集まる！

去る十一月四日。札幌はススキノで市内（近郊）の男性保育者の交流会を行った。

来る一九九五年二月に、第八回男性保育者研究交流集会在札幌で行われるため、市内（近郊）の男性保育者で結集し、この集會を成功させるべく、ご無沙汰の人や新しい人に手分けして連絡を取り、新しい仲間の水口氏（前田保育園）、三田村氏（北の星東札幌保育園）、入沢氏（西岡ふたば幼稚園）の三名を含む、二〇名の仲間が集まった。みんなそれぞれ胸には名札を付け、小田氏のあいさつのあと乾杯をして、飲みくの、食べくの、しゃべりくの、限られた時間の中で盛り上がっていました（紅一点、幌北中央保育園の保

母さんも参加してくれました。）
宴もたけなわ、時間も押ししてしまい、締めは『みんなの力で集會を成功させよう』と言うことで確認を取った。

二次会については、言うまでもなく、某スナックに繰り出し、時間も忘れ、ガンガン飲みくの、ガンガン歌いくの、気がつくともみんなは何処ともなく、ススキノに散っていったのである。
これで来年の集會は大丈夫だろう？

お知らせ
☆次回の例会は十一月二十六日（土）午後七時から、大通十九丁目札幌市職員会館で行います。全国集會の話しは中心です。多くの出席をお待ちしています。

For Editor

9:20に来て、9:40に帰るのに、編集後記を書くはめになってしまいました。12月から保父復活じゃ。気張らずにがんばろう。
(W・H)

三村さんお世話になりました。幌北中央での第1号の新聞です。この前は3月だったので随分久しぶりだなー。全国大会そろそろ追い込み、気ばかりあせる今日この頃。
(S・O)

ぎっくり腰、扁桃腺と災いが次々に起こる私に「お祝いの方がいいよ」という人まで出てくる始末… 来年こそは、金もいらなきや、女もいらぬ、体が丈夫になればいい！！ 良いお年を
(K・K)

94年のF1も終わり、やはりシューマッハがグランドチャンピオンになってしまった。この先フェラーリに勝ちはあるのだろうか？？？ 春までゆっくり寝よとzzzzzzzzzz…
(N・M)

保父の会に入って早1年と7ヶ月。初めて新聞づくりに参加しました。新聞づくりでの“おちゃ”は美味しいですよ。みんなでしんぶんつくりましょう！
(フーミン)